

いにしへの染
光悦辻が花



数百年前の安土桃山。戦国の世に先人の祈りや願を表現し、染め上げた「幻の染辻が花」。昭和40年代に発表され、その高い技術と墨絵の緻密さから「大辻が花」と評されたほどです。きらびやかな色をひかえ、枯れかけた色での表現は日本人の忘れかけていた心に訴えかけます。気の遠くなるような工程の絞りと繊細な墨絵の世界をご覧ください。